

## 第6学年国語科学習指導案

### 1 単元名 生き方を考えよう「海の命」

### 2 指導観

#### こんな子どもだから

- 本学年の子ども達は、これまでに学習した物語文「カレーライス」で、身近な家族とのかかわりの中で、主人公の言動に着目し、根拠となる文をもとに、人物の気持ちの変化を読み取る学習をしている。そこで、本単元でも、人物の心情や書き手の意図が表われている言葉に着目させ、文脈の中で、自分なりに解釈したり、意味付けさせたりしながら、人物の心情や書き手の思いを表現や叙述と関係付けて読む力を伸ばしていきたい。
- これまでの学習で、主人公と自分を重ね合わせ、自分ならどうするか、なぜそう思うのか、自分の経験をもとに自分の考えを持つことを学んできている。そこで、本単元では、「今、君たちに伝えたいこと」「生きる」に読みつなぎ、人物の生き方を描いた「海の命」を学習することで、物語の人物と自分を重ねさせ、自分のものの見方、考え方を深めて、これからの生き方について考えさせたい。

#### こんな単元でこんな読みの力を

- 本教材は、海を舞台に、主人公「太一」の成長の姿が描かれており、6つの場面から構成されている。題名「海の命」や「村一番の漁師」といった生き方を表す象徴的な言葉があり、その意味を考えることで、海と調和して生きる生き方を考えさせることができる。
- 生き方の転換点といえる、クエとの出会いとその後の生き方の変容を中心に考える計画を立てる。その際、自分がとらわれていた夢を乗り越える「この魚を～本当の一人前の漁師に～泣きそうになりながら思う」という文や、太一の生きる姿を表す「村一番の漁師であり続けた」について、必要な言葉や情報を集めて、自分なりに意味付けさせたい。
- 太一の漁師としての成長を読み取り、自分の生き方・考え方を振り返らせる。このことは、卒業を半年後に控え、思春期にさしかかった子どもたちにとって、将来の職業について考えたり、生きることについての考えを広げたりすることにつながる。

#### 中学校での課題を受けて

##### ■ 改善の観点 (A-3)

- クエと出会う前と出会った後の太一の生き方の変化について、書き手の意図が表われている言葉を文脈の中で追求し、自分の見方、考え方で自分なりに解釈して、書きまとめさせる。

##### ■ 改善の観点 (B-3)

- 「太一は漁師としてどのように生きるのか」という読みのめあてを設定し、生き方を表す叙述や影響を与えた人物の言動に着目させながら、自分の読みをつくることのできるワークシートを工夫する。
- 「村一番の漁師であり続けた」とは、どういう漁師として生きたことなのか、「村一番の漁師」「本当の一人前の漁師」などの、叙述や必要な情報を集めて、多面的に考えるワークシートを工夫する。

##### ■ 改善の観点 (C-3)

- 単元の初めに「生き方」について考えるという目的をもたせて、物語を読ませる。人物の生き方についての自分の考えを問うたり、読みのまとめの段階で、主人公太一の生き方を整理し、自分の生き方について振り返らせたりする。

#### こんな子どもに(単元目標)

- 時間の経過と一行空きに注目して文章構成をとらえ、書き手の意図が表われている言葉を文脈の中で追求し、自分の見方、考え方、感じ方で自分なりに解釈して、書きまとめることができるようにする。
- 漁師としての技だけでなく、海の恵みを大事にしながら生きることを選んだ太一の生き方を読み取り、「生きる」ことについての自分なりの考えを書きまとめることができるようにする。

#### 中学校へどうつながっていくのか

- 文脈の中で心情を追求し、多面的に自分の読みをする学習は、「文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げること」という中1のねらいにつながる。また、太一の漁師としての生き方を表す言葉の意味を考えることを通して自分の生き方考え方を振り返り、これからの生き方について考える学習は、「目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身につける」という中2・3のねらいにつながる。

### 3 学習計画（全13時間）

次	時	学習のねらい	主な学習活動と指導上の留意点
めあてをもつ	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生きることについて考えるという目的を持って「海の命」の題名と第一の場面を読み、読みのめあてをつくる</li> <li>(1) 学習の目的をもつ。</li> <li>(2) 題名から考えたこととつないで第一の場面を読み、読みのめあてを考え、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 将来の職業についての夢をもとに学習の目的をもたせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>夢の実現のためにどう生きていくのか。自分の生き方について考えよう。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">海の命</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">今、君たちに伝えたいこと</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">生きる</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> <p>生きることについての自分の考え</p> </div>
	2	<p>&lt;読みのめあて&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-top: 5px;"> <p>おとうを亡くした太一は、漁師としてどのように生きていくのだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主人公太一の「おとうといっしょに海に出る」という強い夢を読み取らせ、おとうの死によって、その夢が破られたことで、太一がこれからどんな生き方をしていくのか問題意識を持たせる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><b>(C-3)</b> 主人公の行動や気持ちの変容に生き方や成長が表われていることを確認する。</p> </div>
読みをもつ	3 ・ 4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全文を読み通し、太一の漁師としての生き方を読みの答えとして書きまとめる。</li> <li>(1) 全文を読み通し、難語句について調べる。</li> <li>(2) 自分の読みをつくる。</li> <li>(3) 各自が考えた自分の読みを伝え合い、方向性をもつ。</li> </ul> <p>&lt;読みの方向&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 太一の生き方を読むために、漁師としてどう生きたか、「村一番の漁師」等の生き方を感じさせる叙述に着目して読んでいけばよいことに気付かせ、太一の生き方を感じられる言葉を整理できるワークシートを工夫する。</li> <li>○ クエと出会う前の太一、転換点であるクエとの出会いにおける変化、その後の生き方を捉えることができるようなワークシートを工夫し、自分の読みをつくらせる。</li> <li>○ それぞれの読みの共通点や相違点を伝え合い、疑問点を明らかにさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><b>(B-3)</b> 太一の生き方を端的に表わしている言葉と生き方に影響を与えた人々の考え方をつないで、太一の漁師としての生き方の変容を多面的に考えさせる。</p> </div>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読みが曖昧だった点をもとに読み確かめる計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ クエとの出会いの中で、太一は考え方をどのように変えたのか、「村一番の漁師であり続けた」とは、漁師としてどのように生きたのかを確かめる計画を立てさせる。</li> </ul>
計画を立てる	7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ クエと出会うことで、考え方を変えた太一の葛藤を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 太一のクエに対する考え方の変化に着目させ、クエとの出会いによって、太一が葛藤し、考え方を变えることで、村一番の漁師になったことを読み確かめさせる。</li> </ul>
	9 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「村一番の漁師であり続けた」の意味を考え、太一がどう生きたのか読み確かめる。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><b>(A-3)</b> 太一の葛藤を、書き手の意図が表われている言葉に着目させ、自分の言語感覚を生かして、解釈させる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 千びきに一びき、子どもたちや母の描写など太一の漁師像や生き方を示す言葉を手がかりに書きこみをさせ、それをもとに太一の姿を確かめさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><b>(B-3)</b> 太一の生き方を端的に表わす叙述に着目させ、前の場面とつないで、多面的に考えさせる。</p> </div>
読みを深め確認する	11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「海の命」をまとめ、「今、君たちに伝えたいこと」「生きる」の作品に読みつなぎ、生きることについての考えを深めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題名にもどって、太一の生き方を振り返り、生きることについての自分の考えを書きまとめさせる。</li> <li>○ 他の作品に読みつなぎ、生きることへの考えを深めさせる。</li> </ul>
	13		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><b>(C-3)</b> 「海の命」「今、君たちに伝えたいこと」「生きる」の作品から、自分の考えをつくることができるようにする。</p> </div>

## 第5時

### 4 本時 ( 5 / 13 )

### 5 本時の目標

- 父を亡くした後、太一は漁師としてどのように生きていくのか、叙述に即した根拠を基に、自分の読みを伝え合い、多面的な見方・考え方・感じ方に気付く、自分の読みを深めることができる。

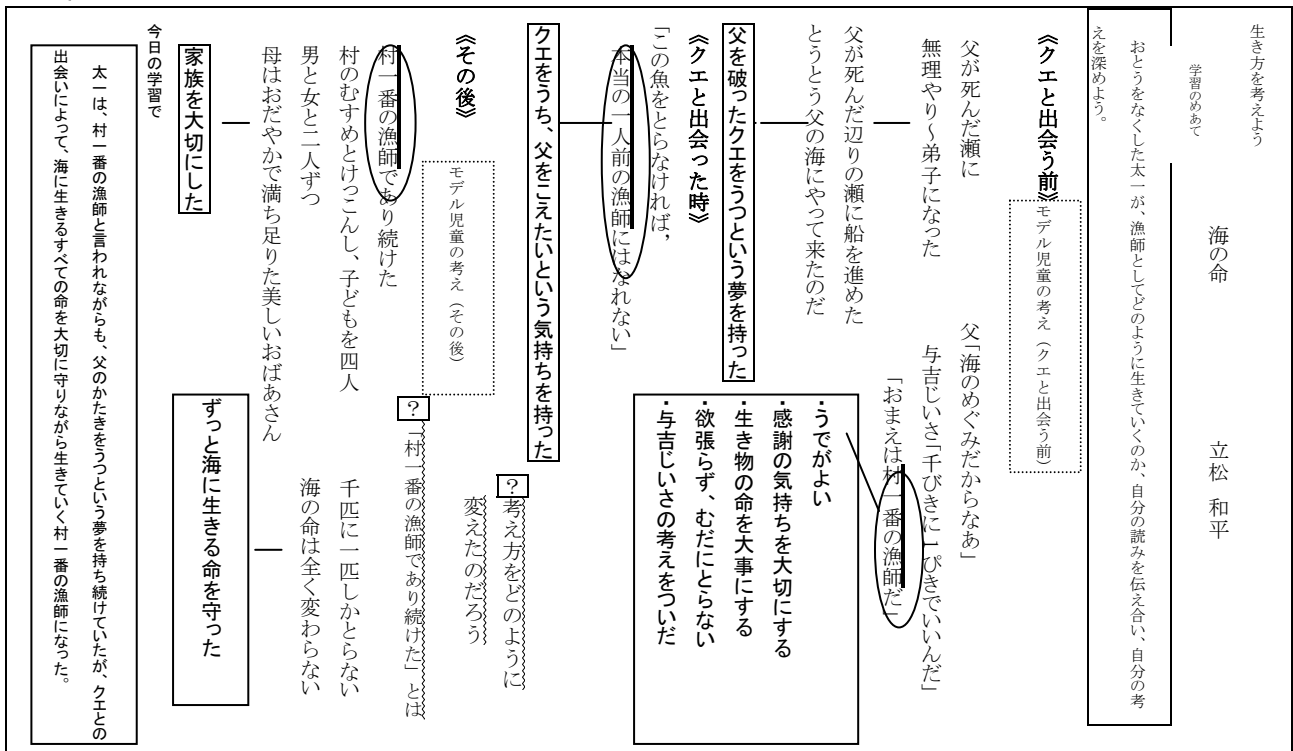
### 6 本時学習における授業改善の観点

- (B—3)条件設定に目を向け、多面的な見方・考え方・感じ方で読む力。
  - ・ 太一の漁師としての生き方が感じられる叙述と太一の生き方に影響を与えた人物の考え方を関係付けて伝え合い、自分の夢やクエへの思い、与吉じいさの教え、母の姿からなどの多面的な見方・考え方・感じ方で読む大切さに気付かせる。

### 7 本時指導についての基本的な考え方

- 本時は、「父を亡くした後、太一は漁師としてどのように生きていくのだろう。」という読みのめあてに対する自分の読みを伝え合い、曖昧な点や疑問点について確認をする学習である。この学習を通して、太一の漁師としての生き方の変容を端的に表す叙述を多面的な見方・考え方・感じ方で意味付けながら読む大切さに気付かせることができると考える。そのために、太一の生き方が感じられる叙述と太一の生き方に影響を与えた人物の考え方を関係付けて、自分の読みをつくるためのワークシートを工夫し、クエと出会う前と後の2つの観点で、太一の漁師としての生き方がどう変わったのかを伝え合わせる。この時、見方・考え方・感じ方の共通点や相違点がはっきりするような板書を工夫したい。
- 本時指導にあたっては、まず、代表児童に自分の読みとその根拠を提案発表させる。次に、代表児童の読みとの共通点や相違点を意識させ、「村一番の漁師」、「本当の一人前の漁師」、「村一番の漁師であり続けた」をどの叙述とつなげて、どう解釈したかを伝え合う。最後に、伝え合いを通して自分の読みを見直し、まだ曖昧な点や疑問点を明確にして、次時の学習計画へつなげる。

### 8 板書図



9 展開

学習活動と内容	指導上の留意点
<p>1 学習のめあてを把握し、学習の見通しを持つ。</p> <p>(1) 前時までの学習を想起する。</p> <p>(2) 本時の学習のめあてを確認する。</p> <p>学習のめあて</p> <p>おとうをなくした太一は、漁師としてどのように生きていくのか、自分の読みを伝え合い、考えを深めよう。</p>	<p>○ 前時までに書き込んだ自分の読みに ついて叙述を基に伝え合い、友達の考 えのよさを取り入れながら、自分の考 えを深めることを確認する。</p>
<p>2 読みのめあてに対する自分の読みを伝え合う。</p> <p>(B-3)</p> <p>(1) 読みのめあてに対する代表児童の読みと自分の読 みの共通点や相違点を意識する。</p> <p>(2) 太一の漁師としての生き方が感じられる叙述と太 一の生き方に影響を与えた人物の考え方をつなげな がら伝え合う。</p> <p>《クエと出会う前と出会ったとき》</p> <p>○ 「村一番の漁師」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腕がよい・無駄にとらない・感謝の気持ちを持つ</li> </ul> <p>○ 「本当の一人前の漁師」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父のかたきをうつ・父をこえたい</li> </ul> <p>《クエと出会った後》</p> <p>○ 「村一番の漁師であり続けた」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族を大切にした</li> <li>・与吉じいさの考えを受け継いだ</li> <li>・海に生きるすべての命を大切にした</li> </ul> <p>3 本時学習のまとめと次時学習の確認をする。</p> <p>(1) 伝え合いを通し、自分の読みと表現を見直す。</p> <p>(2) 本時学習を振り返り、読みの方向付けをする。</p> <p>〈読みの方向〉</p> <p>太一は、村一番の漁師と言われながらも、父のかたきをうつという夢を強く持ち続けていた が、クエとの出会いによって、海に生きるすべての命を大切に守りながら生きていく村一番の 漁師になった。</p> <p>(3) 疑問点やもっと詳しく読み確かめなければなら ない点を確認する。</p> <p>〈予想される疑問点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クエとの出会いの中で太一は考え方をどのように変えたのだろう。</li> <li>・村一番の漁師であり続けたとは、漁師としてどのように生きたことなのだろう。</li> </ul>	<p>(B-3)</p> <p>○ 代表児童の読みをモデルとして提案 させ、似ている読みから異なる読みへ と広げていき、多面的な見方・考え方・ 感じ方に気付かせる。</p> <p>○ 太一の生き方をだれのどんな考え方 とつないで読んだのか、根拠を明らか にして発表させるようにする。</p> <p>○ 「村一番の漁師」の叙述を与吉じいさ の「千匹に一匹」や父の「海のめぐみだ からなあ」とつないで考え、太一の漁師 としての成長や生き方を考えさせる。</p> <p>○ 与吉じいさに「村一番の漁師」と言わ れながらも太一は「本当の一人前の漁師 になれない」と思っていることから、太 一のクエに対する執着の強さに気付か せる。</p> <p>○ 「村一番の漁師であり続けた」と与吉 じいさの言う「村一番の漁師」を比べ、 同じなのか、違うのか、疑問を投げかけ、 読み確かめる必要感を持たせる。</p> <p>○ 友達の考え方のよさを取り入れなが ら、自分の読み方や考え方を付加修正し ながら、自分の考えを表現させる。</p> <p>○ 板書を使って、伝え合った太一の生 き方を色分けし、整理する。</p>
<p>(3) 疑問点やもっと詳しく読み確かめなければなら ない点を確認する。</p> <p>〈予想される疑問点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クエとの出会いの中で太一は考え方をどのように変えたのだろう。</li> <li>・村一番の漁師であり続けたとは、漁師としてどのように生きたことなのだろう。</li> </ul>	<p>○ 読みのめあての答えの違いや疑問点 を板書で確認し、次時の学習計画に生か す。</p>

## 第8時

### 4 本時 (8/13)

#### 5 本時の目標

- クエとの出会いの中で、瀬の主を倒し、村一番のもぐり漁師であった父をこえるという夢を追い求める生き方から、海の命を大切にするという、より価値のある生き方へと変えた太一的心情について読み確かめることができる。
- 太一的心情の変化を、父親との関係、母や与吉じいさの考え、クエの呼び方の違いに着目して解釈する読み方を身に付けることができる。

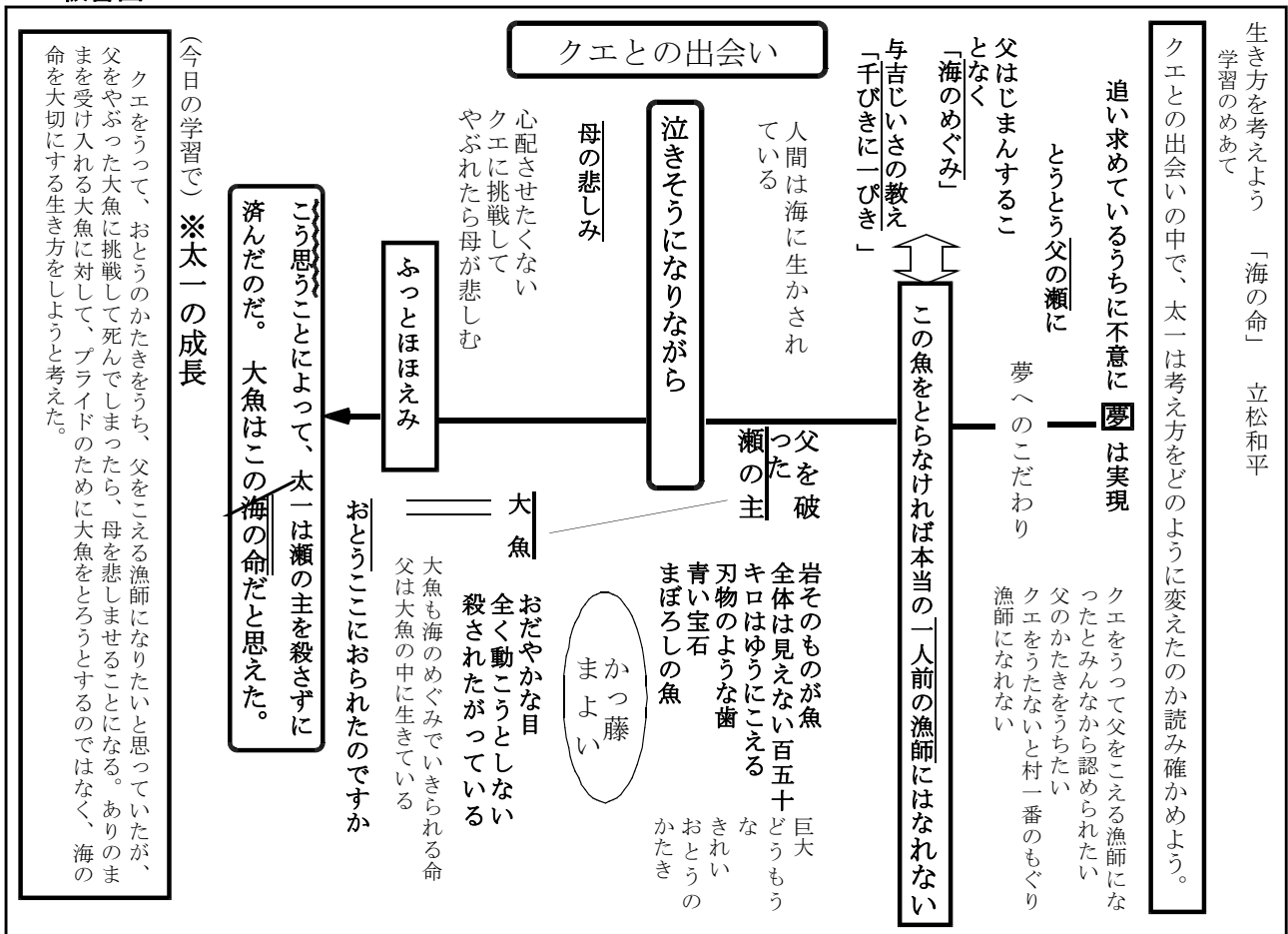
#### 6 本時学習における授業改善の観点

- (A-3)登場人物の心情や場面についての描写を味わい、こう書いて何を伝えたいのかを読む力
  - ・ クエと出会う前と後で太一の考え方が大きく変わる。この葛藤するときの太一的心情を、太一の言動や書き手の意図が表われている言葉に着目し、文脈の中で追求しながら、自分の読みをつくる。

#### 7 本時指導についての基本的な考え方

- 本時は、太一の葛藤についての自分の書き込みをもとに、伝え合い、自分の読みを深めていく学習である。クエとの出会いの中でクエをうちたいというこだわりから解放され、海と共に生きることを選んだ太一の考え方を読み取らせる。さらに、太一が葛藤し、生き方を変えるということについて、自分の見方・考え方を深めさせたい。  
太一に影響を与えた人物の言動とつないだり、言葉を対比したりしながら、文脈の中で心情を追求し解釈することは、広い範囲の中から情報を集め、自分の体験をもとに読む力を育てることとなる。さらに自分のものの見方を広げる上でも効果的である。
- 本時指導にあたっては、「この魚を～泣きそうになりながら思う」「こう思うことによって、太一は瀬の主を殺さないで済んだのだ。」に表現された太一的心情を、自分なりに捉えるために、文脈の中から必要な言葉を集め、解釈し、組み立てることができるワークシートを工夫する。前時に子ども達は、そのワークシートを使って自分の解釈を書きこんでいる。  
本時では、「本当の一人前の漁師になれない」と泣きそうになりながら思う太一の葛藤と心情の変化を、父や与吉じいさの海に対する考え、母の心配、クエの呼び方の違いといった観点から交流させたい。話し合いの際には、自分がどう解釈したのか、根拠となる言葉を出しながら伝え合わせ、話し合いの中で出された意見を取り入れながら、自分の考えを練り直させる。

## 8 板書図



9 展開

学習活動と内容	指導上の留意点
<p>1 前時までの学習を想起し,本時のめあてを確認する。</p> <p>— 学習のめあて —</p> <p>クエとの出会いの中で,太一は考え方をどのように変えたのか読み確かめよう。</p>	<p>○ 前時に書きこみをしたことをもとに,何をどのように確かめていくのか,見通しを持たせる。</p>
<p>2 クエと出会い,生き方を変えるまでにどんな葛藤,迷いがあったのか,話し合う。</p> <p>(A-3)</p> <p>(1) 太一の葛藤を,書き手の意図が表われている言葉に着目し,自分の言語感覚を生かして,自分なりに解釈したことを伝え合う。</p> <p>○ 太一がそれまで追い求めてきた夢から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ クエをうって父をこえる漁師になったとみんなから認められたい</li> </ul> <p>○ 「母の悲しみ」から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ クエに挑戦してやぶれたら母が悲しむ</li> </ul> <p>○ 父の「海のめぐみ」与吉じいさの「千びきに1ぴき」という海に対する考え方とつないで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人間は海に生かされている</li> </ul> <p>○ クエの姿が「瀬の主」から「大魚」に,そして「海の命」に変化したことと,「おとう,ここにおられたのですか」の会話文とをつないで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大魚も海のめぐみで生きられる命</li> </ul> <p>(2) 太一の考えがどのように変わったか自分の考えを見直し,友達の考えを取り入れて書きまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ クエをうちたいと思っていたが,ありのままを受け入れる大魚を見て,海の命を大切に生き方をしようと思った。</li> </ul> <p>3 本時学習のまとめと次時学習の確認をする。</p>	<p>○ 一人一人の読みをカルテで把握しておき意図的な指名を取り入れながら,それぞれのよさを生かすようにする。</p> <p>(A-3)</p> <p>○ どの言葉からどう考えたのか,自分の解釈について根拠をはっきりさせて発表させる。</p> <p>○ 「追い求めてきた夢は不意に実現するものだ」「本当の一人前の漁師」という叙述に着目させ,太一は,クエを見つけて,とりたいたいという夢をずっと持ち続けていたこと,そうすることで,村一番のもぐり漁師だった父をこえたいと思っていたことを読み取らせる。</p> <p>○ 太一が,危険なことをするのではないかという母の心配や,父と同じような死に方をしたら,母を悲しませるといふ母への思いについて気付かせる。</p> <p>○ 「海のめぐみ」「千びきに1ぴき」に着目させ,海のめぐみによって,漁師も生きていけるといふ父や与吉じいさの教えを太一が受け継いでいることに気付かせる。</p> <p>○ クエのイメージが「刃物のような歯」「岩そのものが魚」といった瀬の主の巨大でどう猛な姿から「おだやかな目」「全く動こうとしない」「殺されたがっている」と海に生きる命をもった一匹の大魚に変わったことに気付かせる。 また,「おとう,ここにおられたのですか」の会話文とつないで考えさせ,太一がクエに父の姿を重ねて,父が大魚の中で生きている,クエもおとうも海の恵みで生きられる命ととらえてることに気付かせる。</p> <p>○ 「ふっとほほえみ」「こう思うことによって,太一は瀬の主を殺さずに済んだのだ」という心情を表わす表現に着目させ,大魚を海の命だと思ふことで,クエをうつというこだわりから解放され,海の命を大切に生きる方を選んだ太一の考えの変化を捉えさせる。</p> <p>○ 場面をつないだり,言葉を比べてたりすることで,人物の心情や作者の意図が読み取れることを確認し,太一の生き方について,自分の考えを書きまとめさせる。</p>

# 第10時

## 4 本時 ( 10 / 13 )

### 5 本時の目標

- 自分が捉えた「村一番の漁師であり続けた」について、作品の構造に位置付けて追求し、技術だけでなく海の命を守りながら、家族や村の人々の暮らしも大切にして生きていく太一の生き方を読み確かめることができる。

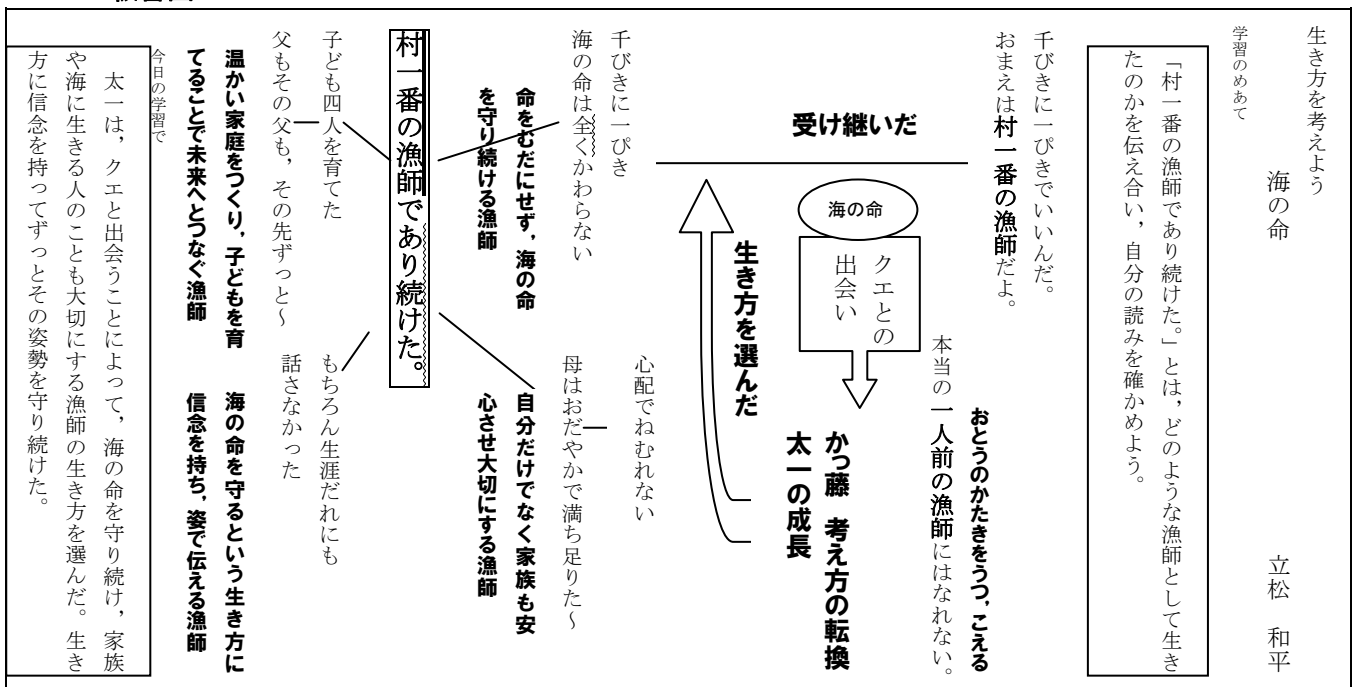
### 6 本時学習における授業改善の観点

- (B-3)条件設定に目を向け、多面的に考えながら読む力
  - ・「村一番の漁師であり続けた」とはどんな漁師として生きたことなのかを、漁師としての立場・父親としての立場・息子としての立場・村のリーダーとしての立場からなど多面的に考えて追求し、自分の読みを見直す。

### 7 本時指導についての基本的な考え方

- 本時は「村一番の漁師であり続けた」とは太一がどのような漁師として生きたのかを伝え合い、太一の生き方について自分の読みを深める学習である。子ども達は、6の場面に描かれている家族や海の描写から解釈したり、前時までに読み取った、クエとの出会いによって葛藤を乗り越え考え方を転換させた姿から解釈したりして、太一の生き方を多面的に考えながら意味を再構築し、自分の言葉で表現していくであろう。このことは、子どもが物語を構造的に読み、経験や知識と結びつけながら表現の意味を考える力を育てるだけでなく、子ども自身の見方・考え方を広げる上でも効果的と考える。
- 本時指導にあたっては、子ども一人一人の読みと表現、根拠を把握して話し合いの構想を立て、それをもとに発問や問い返し、板書を行う。まず6の場面の叙述に着目させ、漁師としての技術が高いだけでなく、家庭をつくり家族を幸せにする姿、海の命や海に生きる人々を守り続けることを貫き通した生き方を捉えさせる。次に与吉じいさの言う「村一番の漁師」との違いや「本当の一人前の漁師」との違いに着目させ、クエとの出会いによって葛藤する中で考え方を換え、海の恵みの中で生きる漁師としてより価値のある生き方を守り通した漁師となったことに気付かせたい。最後に、伝え合いを通して自分の読みと表現を見直し、付加修正して書きまとめさせる。

### 8 板書図



9 展開

学習活動と内容	指導上の留意点
<p>1 本時学習のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時で読み深めたクエとの出会いについてふり返り、太一のその後の生き方について考えることを確認する。</li> </ul> <p>学習のめあて _____</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「村一番の漁師であり続けた」とは太一がどのような漁師として生きたのかについて伝え合い、自分の読みを確かめよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習計画や前時学習の内容を書いた掲示物を使って本時で何を明らかにしていくのか確認する。</li> </ul>
<p>2 「村一番の漁師であり続けた」について話し合う。</p> <p>(B-3)</p> <p>(1) 6の場面の太一の姿から解釈する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもや母の描写に着目して             <ul style="list-style-type: none"> <li>・母は安心して過ごせるようになった</li> <li>・幸せな家庭をつくりずっと海に暮らすのだろう</li> </ul> </li> <li>○ 「千びきに一びき」の考えかたから</li> <li>○ 「海の命は全く変わらない」から             <ul style="list-style-type: none"> <li>・無駄にたくさんの魚を捕ったりせずに、海の恵みに感謝しながら漁師を続けた</li> <li>・村全体として守らせたのではない</li> </ul> </li> <li>○ 「生涯だれにも話さなかった」から             <ul style="list-style-type: none"> <li>・クエをうたずに、今の生き方を選んだことを誇りに思っている</li> </ul> </li> </ul> <p>(2) 前時まで読み取った「村一番の漁師」と比べて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「本当の一人前の漁師」とつないで             <ul style="list-style-type: none"> <li>・与吉じいさは「自分では気づかないだろうが」と言っているのだから、太一は自覚がなかった</li> <li>・太一はクエをうち、父を超えることで一人前になれると考えていた</li> </ul> </li> <li>○ 「あり続けた」とはどういうことか             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で選んだ漁師の生き方を死ぬまで守った</li> </ul> </li> </ul> <p>3 本時学習のまとめと次時学習の確認をする。</p> <p>(1) 読み方のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多面的に考え、意味付けていく良さについてふり返る。</li> </ul> <p>(2) 「村一番の漁師であり続けた」とはどのような漁師として生きたことなのか自分の読みと表現を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えを書きまとめる。</li> </ul>	<p>(B-3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童の書き込みをもとに伝え合いの組み立てを考え、読みの相違点を生かしながら話し合いを進めていくことができるようにする。</li> <li>○ 手がかりとなる叙述を関連づけて板書し、多面的に考える手立てとする。</li> <li>○ 母の姿の変化や、子どもを育てたこととつないで考えさせ、家族を養い幸せにする生き方を捉えさせる。</li> <li>○ 与吉じいさの言う「千びきに一びき」の考え方とつないで、太一が海の恵みを守りながら生きていったこと、「全く変わらない」から、他の漁師もこの考えを受け継いだことを読み取らせる。</li> <li>○ 話さなかったわけを考えさせ、太一が生き方に信念を持ち、海とともに生きることを姿で示したことを捉えさせる。</li> <li>○ 3の場面の「村一番の漁師」と比べさせることで、クエに出会い、葛藤の中で今までの考え方を転換させることで父の死を受け入れ、海の恵みの中で生きていこうと変化した心情を読ませる。</li> <li>○ 自分のプライドのためだけの夢を追うのではなく、家族や村全体、未来の暮らしまで考えた生き方に変わっていることを捉えさせる。</li> <li>○ 海の命とともに生きていく漁師としての生き方を選び、ずっと信念を貫き通したことを読み取らせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 板書を利用して、「村一番の漁師であり続けた」についていろいろな叙述とつないで考えたことで、多面的に読み取ったことを確認する。</li> <li>○ 今日の話し合いをもとに自分の考え付加修正して書きまとめるようにする。</li> </ul>